

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	今後は、理念の理解を全員で深め、実践できるよう取り組みたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	家族の方も漠然とした理解ではなからうかと思われるので、機会ある毎に浸透できるように努める。地域の方への理解は今からの課題である。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	公民館での行事のお誘いがあり、参加している。民生委員の方々の紹介で、近くの保育園のお遊戯会、餅つき大会に参加させてもらっている。今後も、継続していく予定である。現在、市に相談し近い自治会に入会できるよう働きかけてもらい、自治会の最終決定をまっているところである。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在のところ、当ホームの日常業務に精一杯の状態である。	○	今後は地域住民の要望なども把握して、取り組んでいきたいと考えている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	はじめての外部評価であり、皆で取り組みながら意義の理解をしつつある。評価をする中で、不足している点などに気付きつつある。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回の頻度で運営推進会議を開き、そこでの意見は即サービス向上に活かすようにしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	自治会加入に関して市町村担当者に相談し、加入できる方向で指導支援をしてもらっている。	○	今後も疑問点、困ったことは相談しながら解決をはかり、サービスの質の向上に努めていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	対象となる利用者がいないので、学ぶ機会を持っていない。今後の必要性を考え、本年度は勉強する機会を持ちたい。	○	今後の必要性を考え、勉強する機会を持ちたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について、学ぶところまでいかなかったが、ホーム内での虐待などは起きないように細心の注意は払っている。	○	研修会等へ参加をして専門的に学ぶ機会を持つように努めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の解約の経験なし。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者から不満や、苦情がある時はゆっくり話を聞き納得いくように話し合いをしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来所時に、近況報告するように努めている。県外で来所が困難なご家族には、毎月利用料明細を郵送するときに、近況もそえている。また食事量や状態など毎日ノートに書いてスタッフと家族の情報交換を行っている家族もある。	○	家族への報告は定期的に通信などにも取り組みたい。必要ときは個々に応じて報告を行っていく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	グループホーム玄関に御意見箱と用紙を設置し、いつでも意見を頂いて、対応するようにしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回は、スタッフ会議を開いて、気づいたことや改善していきたい事など、意見を出してもらうようにしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事等に職員が確保できるように勤務調整を行ったり、夜の時間帯を利用して、なるべくスタッフ全員がそろって話し合いが持てるように、時間の工夫を行っている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在まで異動はない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>段階に応じて外部の研修に出来る限り参加してもらっている。新人の職員には事ある毎に利用者に応じた対応法など具体的に指導している。</p>	○	本年度も可能な限り必要な研修に参加していく。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>可能な限り勉強会に参加しており、同業者の方々とコミュニケーションを持ったり、交流している。去年はセンター方式のケアマネジメントの勉強会に6ヶ月参加し多くの方々と交流しながら貴重な意見等を頂き実践に活かしている。</p>	○	グループホームの見学研修も計画したい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営者は職員と一緒に働きながら、職員とよく話した職員の変化についてはよく観察するように努めている。</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>努力や実績や勤務状況についてはよく把握するように努めている。資格取得については、資格手当の支給をしている。</p>		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>受け持ちの介護スタッフを中心にして、特に行動や言動が不安定な時は、それを受け止めるように努力している。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所前に出来る限り、ご本人、家族に見学に来て頂き、その時に状況をききながら、話をゆっくり聞ける時間を設けている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	時間の許す限り、ゆっくり話を聞いて、必要としている支援を見極められる様に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	出来る限り、ご本人も家族も短時間でも足を運んで頂き、納得されたところで、入所して頂くようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に寄り添い、笑いのある関係が築けるよう努めている。1人1人の人格を認め合い人として対等な関係を築き上げていきたい。	○	今後もこの関係を深めていけるよう、勉強し職員同士意見交換しながら前進していく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	誕生会ほか行事等の参加のお誘いやうれしい変化、出来事などは、来所時に努めて報告するようにしている。	○	報告をしながら家族の意見、より本人の理解へ深めていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が来所された時は、日々の暮らしについて、報告をするとともに今まではどうだったのか？、こんな人だったんですか？などゆっくりと本人の話をし共通理解を深めるよう努めている。これらのことにより情報交換にもなり、介護の一助にもなっている。	○	今後もこのような継続に努めていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ときどきは、面会に来ていただいている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	常に利用者同士の関係に気を配っている。一人が孤立しそうな場合さりげなくその場を離れるように援助したり、その他の人にわかるように説明したり支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	今まで退所した利用者はいない。経験していないが対象者が 出た場合このような関係作りに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の活用と月1回の常勤スタッフによるケア会議を開き、介護計画の見直し等行っている。	○	全利用者にセンター方式を取り入れ、よりその人らしさのある介護計画作成を行っていききたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用し、御家族にシートの記入(私の家族、生活史、暮らし方、生活環境)を依頼して、情報の把握に努める。	○	センター方式のシート記入だけでは、情報の把握不足な点を職員と家族のなじみの関係作りをして、情報交換がよりよくできるようにしていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	受け持ちスタッフやその日の勤務者と話し合いながら、どう過ごすことがいいか日々も空いた時間の中で、話したり、ケア会議の中で話し合うようにしている。	○	本人の有する力に関しては家族と情報交換をする中で少しずつ出てくると思われる、家族の協力を得ながら把握していきたい
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	できる限り、気づき・意見・要望を反映した計画が作成できるように、月1回スタッフ間のケア会議を行い、担当者を中心に、ご家族、本人のニーズを取り入れながら計画作成に努めている。	○	ご家族からの意見要望などが、気軽に遠慮なくでしていただけるような関係作りを行っていくとともに、せめて半年ごとには、サービス担当者会議を開いて、ご家族にも理解していただけるようにしたい
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の書面上の書き換えは、後れがちであるが、状況の変化に応じて、担当者で話し合い、計画の追加・変更を随時行っている	○	できるだけ、月1回は計画の見直しをするようにしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録用紙と、3名はセンター方式の24時間生活変化シートと生活リズムパターンシートに毎日記入を行い、他スタッフと情報の共有を行い、介護計画に変更・追加のあるときは、記入するようにしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	たとえば、月1回の定期受診など、家族付添が困難な時は、往診を依頼したりなどで、対応は行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	1回だけだが、近隣の社会福祉協議会主催の祭りに参加の希望のあった利用者をよく来所されるボランティアの方に同行してもらった。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今のところ、特に行っていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議においては包括支援センターからも参加をいただいている。 そのほかの事は、現段階では協働して行っていることはない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続希望の方は、続行していただき、状態変化など必要に応じ、連絡・相談するようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	各々のかかりつけ医があり、専門医の受診に至っていない。	○	必要があれば主治医と相談の上専門医の診断、治療が受けられるようにしていく。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職は常勤2名おり、日常の健康管理や医療的な支援を行っている。症例に応じて観察の仕方を職員に教育している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	現在までに2泊3日の入院1件のみ経験している。短期であったが情報交換に努めた。家族の不安が強く話をよく傾聴し不安の軽減に努めた。	○	現在のところ、まだ長期の入院はないが、今後そのような状況になった時は、病院関係者との情報交換に努めていきたいと考えている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今のところ、終末期に当たる入居者はおられない。状態の変化については、その都度、御家族に状況報告し、対応状況などの説明は行っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者の方は現在のところこの対象ではないが、今後のことを考えて取り組みたい。	○	開設して1年経過の時期にきたので、少しずつ今後の変化にそなえての準備、連携体制づくりやマニュアル作成など計画を立てていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族、本人と十分話し合うようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を利用し、間隔を見てトイレ誘導やパット交換を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外は毎日入浴を行っている。だいたい2～3日おきには、1日2～4人程度で声かけしているが、タイミングで入られな時は、無理強いせず、時間や日にちを改めるようにしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	自分で、出来る方は、自室でベッドで休んだり、フロアでテレビを見るなど自由にしていただいている。そのほかは、顔色や疲れ具合を見て、ベッドで休んでいただくなど介助している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	力を生かした役割は模索中であるが、月2回程度、地域のボランティアの方と、歌を歌ったりしている。また利用者のお一人は、大正琴を持ってきていただき、いつでも気の向いたときに弾いてもらえるようにしている。食事の箸配り、掃除機かけ、洗濯物干しが自分の役割となってきた利用者もおられる。	○	その人らしい力を生かせるよう、家族から情報をえながら役割、楽しみを探していく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、本人がお金を持つことの大切さは十分理解している。本人の希望で、事務所で預かっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	頻度的には少ないが、要望に応じ買い物、ドライブなどに出かけている。	○	本年度は余裕を持って外出の機会を持っていく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の希望に添い、家族と相談し外出の機会作りをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に電話をかけてもらっている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族等馴染みの人たちがいつでも訪問でき、居心地良く過ごせるような雰囲気作りの努めている。(職員の笑顔での対応、湯茶等の準備)訪問の時間の制限なく、また訪問をお断りした事はない。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どんな事があっても拘束はしないという意気込みで取り組んでいる。やむを得ない場合は玄関の施錠をしている(幻聴、幻覚により脱出の危険があるときのみ)		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は出来る限り施錠はしないようにしているが、幻覚・幻聴などの症状悪化時に対応困難でやむをえないときに限り施錠を行っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	その様な配慮をしながら利用者の安全に努力している。日中はフロアに必ず一人はいるようにし、職員間での声かけをしている。夜間は、状況の確認と物音が聞こえ、危険防止ができるように、極力フロアの中央で待機するようにしている。また30分から1時間毎には、各部屋の見回りを行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	現在のところ、注意の必要な刃物類等所定の位置においてあり、常に危険のないように気配りしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	研修会や、グループホームで行う火災訓練のほかに、防災センターでの消防訓練等も受講し、知識・技術の習得に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	夜間の転倒や発熱など状況の把握、利用者の状態観察はできているが、応急手当などは行っていない。	○	全職員が、応急手当ができるように知識・技術の習得のための勉強会や実技指導を行っていく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	まだ地域の人々の協力を得られるところまではいっていないが、運営推進会議を通して、利用者の状況、防災訓練時の状況報告などを行っている。	○	地区の消防団との協力体制づくりを行っていく。また災害に備えての備蓄も考え、少しずつ物品の準備をしていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	現在行っている対応について説明し理解を頂いている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝検温と血圧測定を行い、異常があれば、申し送り臨検をする。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、薬の目的・用法・用量については理解しているが、副作用については不十分なところもある。また症状の変化など必要時、主治医への報告連絡は取っている。飲み忘れ、誤薬がないように手渡し時に、名前と日付の声だし確認を行っている。	○	状態の変化に応じて、薬の渡し方、服用の仕方、確薬の徹底など徹底していくようにする。内服薬の変更や追加・変更時は、目的・副作用など周知徹底していく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	下剤等の薬だけに頼らず、排便間隔を見ながら、腹部マッサージや、水分量の調節を行い、また毎朝食に牛乳をつけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後はできていないが、寝る前の義歯洗浄、口腔ケアは徹底できている。また、食物残渣が多く誤嚥の可能性のある方は、毎食後行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	インシュリン注射を行っている利用者様を基準にして、1日1600キロカロリーで計算した献立をたてており、ご飯の量も1人1人に応じて計っている。水分摂取量も毎日チェックしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	勤務出勤時、各処置時、石鹸と流水での手洗いの徹底、感冒症状のあるときは、マスク使用など自己管理のもとで行う。ノロウイルス発生の通知などは全員に周知、トイレ各部屋、イスなどの拭き掃除の方法など取り決めを行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理の前の、手洗いの徹底、1日の最後に、ふきん、まな板、スポンジ等は、毎日熱湯消毒し、1週間に1回はハイター消毒も行っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	違和感なく誰でも出入り出来る玄関周りになっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ときどきは四季折々の花を、食卓に飾っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事テーブルの他にコタツのある畳の間、テレビ鑑賞の場、があり利用者はそれぞれに利用している。誘導する利用者もある一人になれる場所は個室しかない、1人の利用者は職員休憩用のソファで休んでいることがよくある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と本人の相談にて好みのものが持ち込まれている。位牌を持ち込んでいる方もいる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝、掃除の前に、フロアと各部屋の窓を開けて、換気を行い、1日3回管理日誌に、室温、湿度の記録をして、温度調節を行っている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路となるところには障害物を置かないようにしている。その人の歩行能力に応じて車椅子、歩行器等の利用をしてもらっている。また作業療法士と相談の下必要なリハビリを行っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	現在のところ混乱をきたすような経験はない。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外回りで日向ぼっこをして楽しんだり、洗濯干し場になっており洗濯物を干したり、取り込んだり利用者の方にも手伝ってもらっている。菜園もありその場を活かしたいのであるが、中々である。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・利用者を一人、一人の人間として対等に付き合えるように心がけ努力している。
- ・必ず、利用者のペース合わせて支援しており、職員しており職員の都合を押し付けない。